

国際理解研究会のみなさま、お元気ですか？

大変ご無沙汰をして失礼いたしました。
リヤド日本人学校の河井です。
久しぶりに派遣の報告をさせていただきます。

サウジアラビアについてのご紹介

1・リヤド以外の町

さて、派遣年度も3年目になり、サウジについても色々詳しくなってきました。

今回はサウジアラビアのリヤド以外の場所もご紹介いたしましょう。

(サウジアラビアは政治的、宗教的かつ軍事的理由で、どこでも自由には写真を撮影できないので、あまりよい写真がありません。ご勘弁ください)

まずは**ジェッタ**（ジッタ、ジェダなどと表記される場合もあります）をご紹介します。

紅海側にある港町です。サウジ第二の都市です。
ダイビングができますし、ホテルのプライベートビーチで海水浴ができます。

私はそのビーチでシュノーケリングをしましたが、目の前が色とりどりのお魚さんの群れで埋め尽くされ、その光景に絶句しました。

この町はイスラム教の聖地メッカ（こちらではマッカと発音します）に近い、サウジアラビアの西の玄関口です。

ジェッタの空港には巨大な巡礼者用のテントがあり、ハッジ（巡礼月）になると全世界からムスリム（イスラム教徒）がやってきます。

また、この町には260メートルの高さまで水を噴き上げる世界最大の噴水（ジェットエンジンで水を噴き上げるのだそうです。）や「アダムとイブ」のイブのお墓と伝えられる墳墓などがあります。（その場所まで行きましたが、壁に覆われていて、中は見られませんでした。）

私たちがジェッタに来て驚いたのは、ショッピングモールにBGMがかかっていること。



リヤドではありえません。

色々な国の人があるので、リヤドより開放的なのかも知れません。

女性のアバヤも基本黒なのは変わりませんが、袖に華やかな装飾があったり、シースルーになっていたり、デザイン性に富んでいます。

空港も大きなお土産物屋さんがあって（リヤドの空港にはキオスクぐらいのものしかない）びっくりしました。

同じサウジなのに、ここまで違うのかと驚かされましたね。

ジェッタの人に言わせれば「リヤドが特別なんだよ」ということだそうです・・・ここジェッタにも日本人学校があります。

次にアラビア半島の反対側、東のアラビア湾（ペルシャ湾）沿いにある町、ダンマン（ダンマームと記載される場合もあり）です。

リヤドからダンマンまではサウジアラビア唯一の鉄道ダンマン列車が走っています。

昨年夏に「世界の車窓から」でも紹介されたので、ご覧になった方もいらっしゃるかも知れませんね。

ダンマンにはサウジ最大の石油会社サウジアラコムの博物館があります。

そのシアターでは日本語でのプレゼンテーションも3D映像で見せてもらえます。（ただし現在は改装中で、来年までこの博物館は観られません）

また、ダンマンの空港の隣にはサウジアラコム専用の飛行場もあり、その規模の大きさに驚きます。

また、ダンマンから車で2時間ほど北に走ったところにはジュベール（ジュバイルとも書く）という町があります。

ここは、海に面した砂漠に人工的に作られた町です。

工業団地として造成され、日本の企業も合併ですが、参入しています。

現在ジュベール2と呼ばれる新しい団地も造成中です。

工場はもちろん、そこに働く人たちのための住宅、商業施設、学校、病院、発電所にいたるまで、すべてを一気に作ってしまったのですからすごいものです。

私たちは学校の宿泊体験学習の中で、このジュベールにある博物館を見学させていただきました。

しかし、同じ日にVIP（王族だったらしい）が来ることになり、見学もほどほどに体よく追い出されてしまいました。（その代わりに科学館を見せてくれました）



奇岩が森のようにそびえ立つ
アルガラ山



次にホフーフという町をご紹介します。

ダンマン鉄道をダンマンに向けて走った二つ目の駅が、ここホフーフです。リヤドから列車で3時間くらいです。

ここで目を引いたのはホフーフ郊外にある巨岩でできた山々（アルガラ山）です。

おそらくは石灰岩が浸食されて出来たものと考えられますが、なかなかの絶景です。

山の麓には陶芸の工場があり、昔ながらの素焼きの陶芸を作成していました。

また、オアシス都市で、地下水が豊富なので、リヤドと比べて緑が多いのも印象的でした。

次にコバールです。普通、定冠詞の The にあたる Al を付けてアル・コバールと呼ばれます（ホフーフも同様にアル・ホフーフ、リヤドもアル・リヤドと呼ばれますが、ジェットにはアルが何故かつきません。）

ダンマンから車で1時間ほど西に走ればつきます。

ここには隣の国バーレーンまでの橋＝コースウェイがあります。

私は車で何度かこのコースウェイを渡りましたが、真っ青な海と空の間を走っていく快感は筆舌に尽くし難いものがあります。

ただ、そんなバーレーンもデモが激化して、今は行けない国になってしまいました……話をアル・コバールに戻しましょう。

ここもリヤドとはまったく雰囲気が異なり、大変開放的です。

こことリヤドとの大きな違いは、町の雰囲気だけではありません。

この地域はイスラム教シーア派の人々が多いのです。

リヤドをはじめ、サウジアラビアの多くの人はスンニ派（スンナ派と言う場合もあり）です。

この違いは日本にいるとなかなか理解しがたいものがありますが、ものすごく根深いものがあり、両者を歩み寄らせるなんてことは、おそらく無理であろうと思われます

目に付くところではお祈り（サラ）の方法も違えば、生活様式も違ってきます。

スンニ派の人に言わせれば「あいつらの教義は邪道だ。訳が分からん」ということになり、シーア派の人に言わせればその逆になります。

アラビア湾を走り抜ける
コースウェイ



イスラム教が生活の根幹に関わっているアラブの人たちにとっては、その違いは人種の違いにも匹敵するほど、いえ、それ以上なのかもしれません。

それを肌で感じられただけでも行った価値はあったかなと思っています。

次はカルジ（ハルジと書かれる場合も有り）です。

リヤドから南東へ車で2時間半ほど走ったところにあります。

そこで目を引くのは巨大な縦穴です。

大小二つの縦穴があるのですが、どれも直径にして50M以上、深さは単純な目測ですが、30M位はあるでしょうか？

とても大きく、深い大穴です。どの穴もその壁はほぼ垂直です。



近くで撮った写真
怖くてこれ以上近づけない

両方とも20年～15年くらい前までは満々と水をたたえていたらしいのですが、今はどれも干上がっています。大きい方のそこの方にはわずかに水がありますが、利用できるものではありません。（昔の取水装置がそのまま残っています）

一緒に行ってくれたサウジ人の方も「私が子どもの頃はここで泳げたんですよ。」と話してくれました。

この穴がどうして出来たのか？不思議なところですよ。案内してくれたサウジ人の方は「大昔に隕石が落ちて出来たと聞いています。」なんて眉唾なことを行っていました。それはないですね。

隕石でできたクレーターなら、すり鉢状になるはずで、この垂直な壁を説明することができません。

私が思うに、この穴はギアナ高地にある大穴や、ガテマラに突如出現した大穴と同じプロセスで出来たに違いありません。

石灰岩で出来た土地が長い間に降雨や地下水で浸食され、一気に崩れ落ちたのでしょう。穴が地下水をたたえていたのがその証拠ですね。

サウジの地下水は、大昔ここが湿潤だった頃閉じ込められた化石水だと言います。

だから、利用すればするだけ減っちゃって、もとにもどることがないのですね。

最後にご紹介するのはサウジから北西に2時間ほど走った所にあるラグバーと言う町です。

ここには伝統的なサウジの町並み（城壁都市）の跡があります。

再建中のタワー



放棄されて廃墟になった古都



ここは放棄されてしまい、廃墟となった町です。どの家も、土(泥)と木材(椰子の木)でできています。物見の塔だけが完全な形で残っており、中に入ることができます。

私たちが訪れたときは修復中でしたが、中に入れてもらえました。

中はとても狭く、細身の大人がやっと一人上れるくらいの螺旋階段になっています。

私も上がる途中で、壁で肩をすりむいてしまいました。

この町を私たちが見物していると、通りがかりのサウジ人が寄ってきて、流暢な英語で「何してるんだ？」と聞いてきました。最初いぶかしげに私たちがを覗いていたその人でしたが、私たちが日本人学校の教員とその家族で、サウジを知るためにあちこち観てまわっていると伝えると、とたんに笑顔になり、「そうかそうか」とあちこち説明してくれました。

物見の塔は敵をいち早く発見するためのものであるとか、この町は洪水のために放棄されてしまったとか、ここのモスク(イスラム教の寺院)は修復中であるとか。

それはそれは親切に解説してくれました。

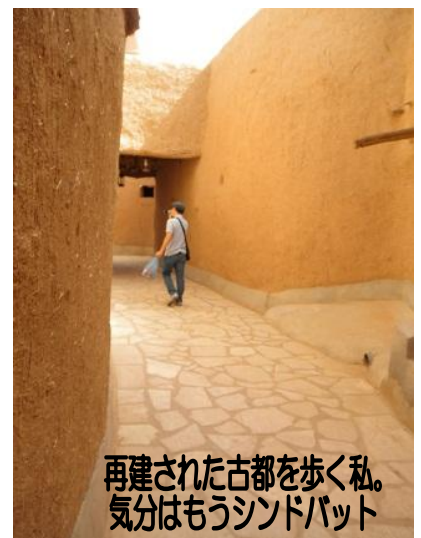
そこからさらに1時間ほど北東に走ったところにある、ウシヤイクアーという町には、同じような昔の城塞都市がありました。

そこも放棄された町なのですが、一部が当時のように再現されていて、きちんとした観光スポットとして存在していました。

再現された昔の町並みは、とても狭い路地と、高い壁で囲まれていて、大変興味深かったです。

サウジの歴史の片鱗に触れたような気がしました。

さて、ここまで「車で〇時間」と書きましたが、サウジの場合、常時時速120キロはでていきます。(道路の制限速度が120キロなので)休憩時間をいれても1時間に100キロは軽く走ります。それくらいの距離感でお考えください。



再建された古都を歩く私。
気分はもうシンドバット

砂漠でバギーを楽しむ私と息子。
結構スピードがでる。



2・リヤドでの娯楽

さて、イスラム教の厳しい戒律が支配し、娯楽という娯楽のないリヤドですが、楽しもうと思えばそれなりに楽しむ場所もあります。

その場所はなんに行っても砂漠。

砂漠で乗るバギーは爽快ですよ。

写真は子どもでも乗れる簡単なバギーですが、大人用の（変速ギアのある）本格的なものにも乗ることが出来ます。写真のバギーは1台1時間

100SR（2500円くらい）で借りることが出来ます。

でも、疲れちゃって1時間も乗ってられません・・・。

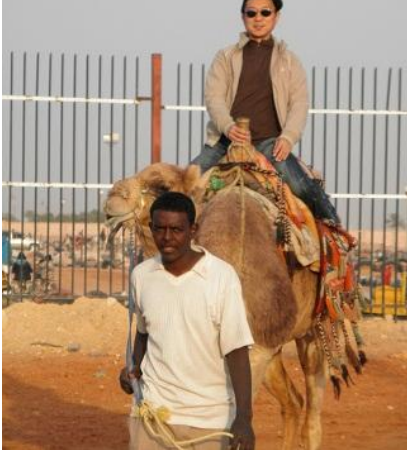
また砂漠で化石やサウジダイヤ（水晶）を探すのも楽しいです。

先週は砂漠にデザートローズを取りに行きました。（片道400キロメートルを爆走！！）

ただ、砂漠で遊ぶのは冬だけにしておいたほうが無難です。

夏は暑くてばててしまいます。（砂漠だと60度近くまで上がるから）実際、先週はデザートローズを掘りながら軽い熱中症になりました。（指先がしびれてきた！）

ラクダに乗る私。
結構こわい



いくつもある大きなショッピングモールには、たいてい遊園地が付属しています。

最初にプリペイドカードを買って、それで遊具を楽しむシステムです。

プリペイドカード売りのお兄さんが、どこのモールに行っても何故か英語が通じない人ばかりで、行くたびに困るのですが、それでも何度か子どもを遊ばせることができました。

スケートリンクがあるモールもあります。（サウジの子もすごく上手に滑る！どこで覚えたんだろう？）

驚いたのはそれらのモールのプレイスペースに、日本のテレビゲーム（ゲームセンターにおいてあるやつ）がそのままおいてあることでした。お金を入れる部分だけ、プリペイドカードをスラッシュするように改造されていますが、ほかの部分は日本のものそのままです。

リヤドには動物園もあります。

これといって珍しい動物はいませんが、なかなか広くて楽しめます。

サウジの人は警告があるにもかかわらず、動物にえさをあげちゃうので、チンパンジーな

んかはそれになれちゃって、平気でえさをねだります。いけませんね。

この動物園も夏はあつくて、しんどいです。やっぱり行くのは涼しくなってからですね。



動物園内を走るトローリー
ぐるっと園内を回るので、便利。
入場料とは別にお金を取るのが玉に瑕。

さて、長々と書きましたが、今回のご報告はここまでとさせていただきます。

ではまた。
みなさんよい夏休みをお過ごしください。

マッ・サラーマ！（さようなら）

リヤド日本人学校

河井義徳

道ばたで出くわしたラクダ。
サウジのやつはヒトこぶ。
白いのと黒いのが多くてラクダ色をしているのは少ない

